

新規・継続等	新規	分野	主要な道路の整備		事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)					
市町村名	おおまちし 大町市		ふりがな 箇所名	やりがたけせん みやたまち (一)檜ヶ岳線 宮田町			事業年度 (完了年度は見込み)	年度～		年度			
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=1,100m W=6.0(12.0)m					H22年度末事業進捗率	0%					
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%					
	H23年度実施内容						用地補償費ベース	0%					
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度	H23年度		H23年度以降残				
	事業費計(千円)	480,000		0		0	0		480,000				
財源内訳	国庫支出金	264,000		0		0	0		264,000				
	その他												
	県債												
	一般財源	216,000		0		0	0		216,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価				部		政策評価課		
									ランク	評点	ランク	評点	
	必要性 (25)	計画交通量	10,000台/日以上			1,500台以上～10,000台/日未満		1,500台未満		B	2	B	2
		代替道路	唯一の道路である			代替となる道路がある					0		0
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある			駅やインターチェンジが20km以上にある		駅やインターチェンジに通じる路線でない			5		5
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である			山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する		山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない			2		2
		各事業特有の必要性(安全の確保)	観光地に通じる道路			観光地に通じる道路ではない					2		2
			5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)			5.5m以上6.5m未満(幅員)		6.5m以上(幅員)			4		4
		歩道未整備区間に歩道を設置			歩道はあるが不十分であるものを再整備		歩道整備無し		2		2		
	小計							17	17				
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)			県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)		該当なし		B	4	B	4
		設計上の環境配慮	環境配慮がされ現実性が高い			環境配慮がされているが現実性が低い		環境配慮をしていない		B	2	B	2
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている			緊急輸送路(2次)又は、奥産、雪害、過疎に位置付けられている		特別な位置づけはない		3	3		
		小計							9	9			
	効率性 (15)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上			B/C 1.0～1.5未満		B/C 1.0未満		B	6	B	6
		事業効果の早期発現(H21以降残事業年数)	事業年数 5年未満			事業年数 5年～10年未満		事業年数 10年以上		B	3	B	3
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。			部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		コスト縮減はしていない		2	2		
	小計							11	11				
	緊急性 (25)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる			交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる		交通事故や落石等の危険がない		A	9	A	9
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所が緩和する			渋滞箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する		渋滞対策ではない		A	4	A	4
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)			医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		医療・福祉の連携に関係ない道路		9	9		
	小計							22	22				
	計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い			市町村からの要望		特に要望がない		B	6	B	6
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知			関係者中心に周知		特に周知していない		B	0	B	0
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加			住民や市町村の意見を計画策定に反映		特に住民意見は反映していない		4	4		
小計							10	10					
費用対効果(B/C)		2.83			評価の合計				B	69	B	69	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該区間は、周辺に小学校、中学校、高等学校がある通学路であるとともに、中心市街地へ通じる生活道路でもある。また、大町ダムや葛温泉へアクセスするため、観光にも利用される路線である。現況は両側に歩道があるものの、幅員が1.0mと非常に狭くて通行しにくい上に、車道幅員も5.0mしかないため、自転車の通行や車同士のすれ違いに危険がある。特に、冬期は雪によりさらに幅員が狭まり、歩行者が非常に危険な状態であるため、地元から改											
	地域からの要望経緯	平成16年の道路行政懇談会で、歩道の改良と除雪困難解消について要望があり、H18年から毎年、野口等沿線自治会より強い要望がある。											
	事業説明等の経緯	未実施											
	環境・景観への配慮項目	構造物は小規模なものにとどめ、出来るだけ目立たないようにする計画である。											
	他事業・プロジェクトとの関連	都市計画決定区間である。											
特記事項	今後、住民意見を聞きながら計画を進めていきたい。												
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他				
部意見	緊急性の評価レベルは高い。今後計画熟度を高め、事業化を検討したい。					政策評価課見		緊急性は認められる。					